

箕島高等学校

| | |
|------|--------------------------------------|
| 実施日時 | 令和元年 5月22日(水) 10:35~12:25 |
| 参加者 | 本校1年生 152名、教職員 16名、PTA 役員 10名 計 178名 |
| 実施内容 | 地震及び津波の被害についての講義・高台(避難指定地点)への避難訓練 |

事前の取り組み

本校は有田川の河口近くに隣接し、地震による倒壊被害以外に、津波による甚大な被害が想定される。南海トラフ大地震を想定し、学校にいるときに地震に遭遇した場合、どのような行動をとるべきか、事前に話し合う機会を設け、地震・津波から命を守る防災対策、減災対策についての意識を高めた。

主なプログラム

本校1年生全員が格技場に集合し、教頭から防災についての講話を受けた。実際の津波の状況やシミュレーションの映像を通して、もし本校に津波がきたらどのような状況になるかを想定し、津波被害に遭わないために避難はどうすればよいか、どのようなことに注意すればよいのかなどの説明を受け、生徒自身が考える機会を持った。また、和歌山県に大きな被害をもたらす南海トラフ地震は、今後30年以内に70%程度の確率で発生すると予測されていること、その際には、多くの建物が全半壊し、また、大きな津波がすぐ発生する確率が高く、多くの命が失われることが予測されていることを学んだ。

格技場での講話終了後、津波を想定し、正・副担任の引率でクラス単位に避難訓練を実施した。避難指定地点に定められている学校北側にある愛宕山の海拔20mの地点を目指し、生徒たちはクラスでまとまって避難行動をとった。避難経路途中にある県道(望月線)は、普段から交通量が多く生徒たちが横断するのに混雑していたが、有田

警察署の方々や、PTAの皆さんの協力のおかげで、事故もなく安全に通行することができた。しかし、実際に災害が起こった際に、さらに状況は混沌としていると思われるため、今日の訓練をもとに、実際の避難の時に役立ててほしい。



(教頭からの講義の様子)



(避難指定地点まで避難経路確認)

参加者感想文

A： 地震や津波は様々な場所で発生していますが、自分の住むところは大丈夫な気がしていました。しかし、今回の講習で、洪水のシミュレーション図を見て、自分が学ぶ箕島校舎や、私の住む地域に津波が来る事がわかりました。すぐに避難できるようにしないとダメだと思います。今回の訓練で高台に避難しましたが、本当に津波が来るときはめちゃくちゃ焦ると思うので、冷静に行動できるようにしたいです。

B： ニュースで地震の映像を見ながら、どこか他人事に思っていた自分があります。南海トラフ地震は、70%以上の確率で30年以内に発生するとのこと。今日は、「減災」と「率先避難者となれ！」という言葉が教えてもらいました。自然災害にはかたがたありませんが、まず、自分の命は自分で守り、被害を少しでも抑えられるよう、みんなで考えていきたいです。

成果

教頭からパワーポイントを利用した講義を行い、東日本大震災の津波被害の様子や、県から発表されている防災マップを示すことで、実際に地震・津波が起きた場合に自分のとるべき行動について考えるよい機会になったと思われる。

その他の取り組み

救急救命講習



本校では、例年、1年生を対象に救急救命講習を受講することとしている。クラス単位で隣接する有田消防署の消防士の方から直接説明・講習を受け、班別に各全員が心臓マッサージの方法、AEDの正しい取り扱いを体験する等、応急心肺蘇生法を7月に学習した。

防災・減災についての展示



10月31日、11月1日に実施した文化祭において、防災・減災に関する展示ブースや、アルファ化米の試食コーナーを設けて、防災や減災についての理解を深めた。

今後の課題

高校に入学してすぐの時期に避難訓練を実施することは、防災・減災への意識を高める上で有用であると思われる。継続して実施するとともに、次年は、新たな取り組みも検討したい。